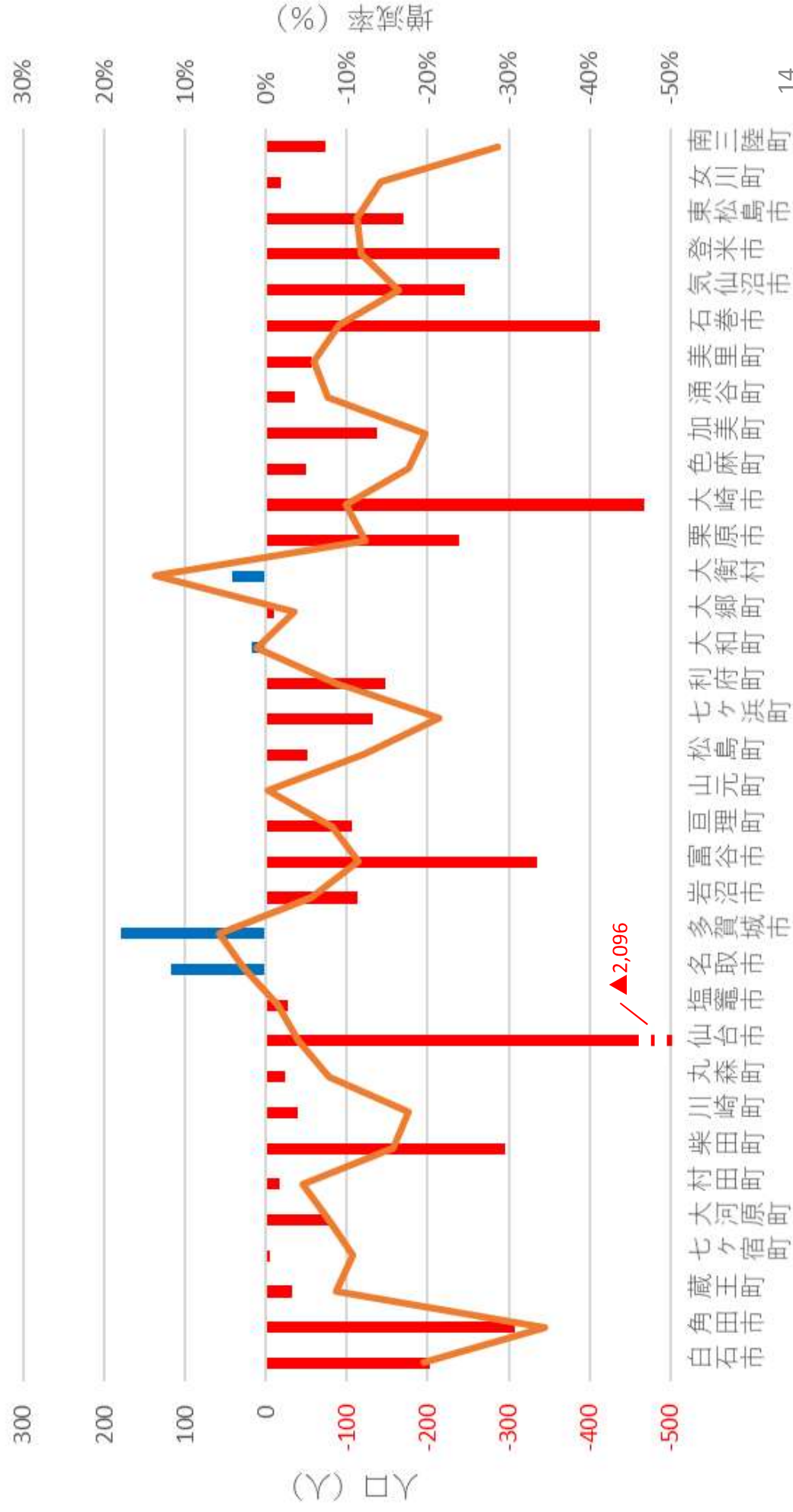


2-3 今後の展望（通学）

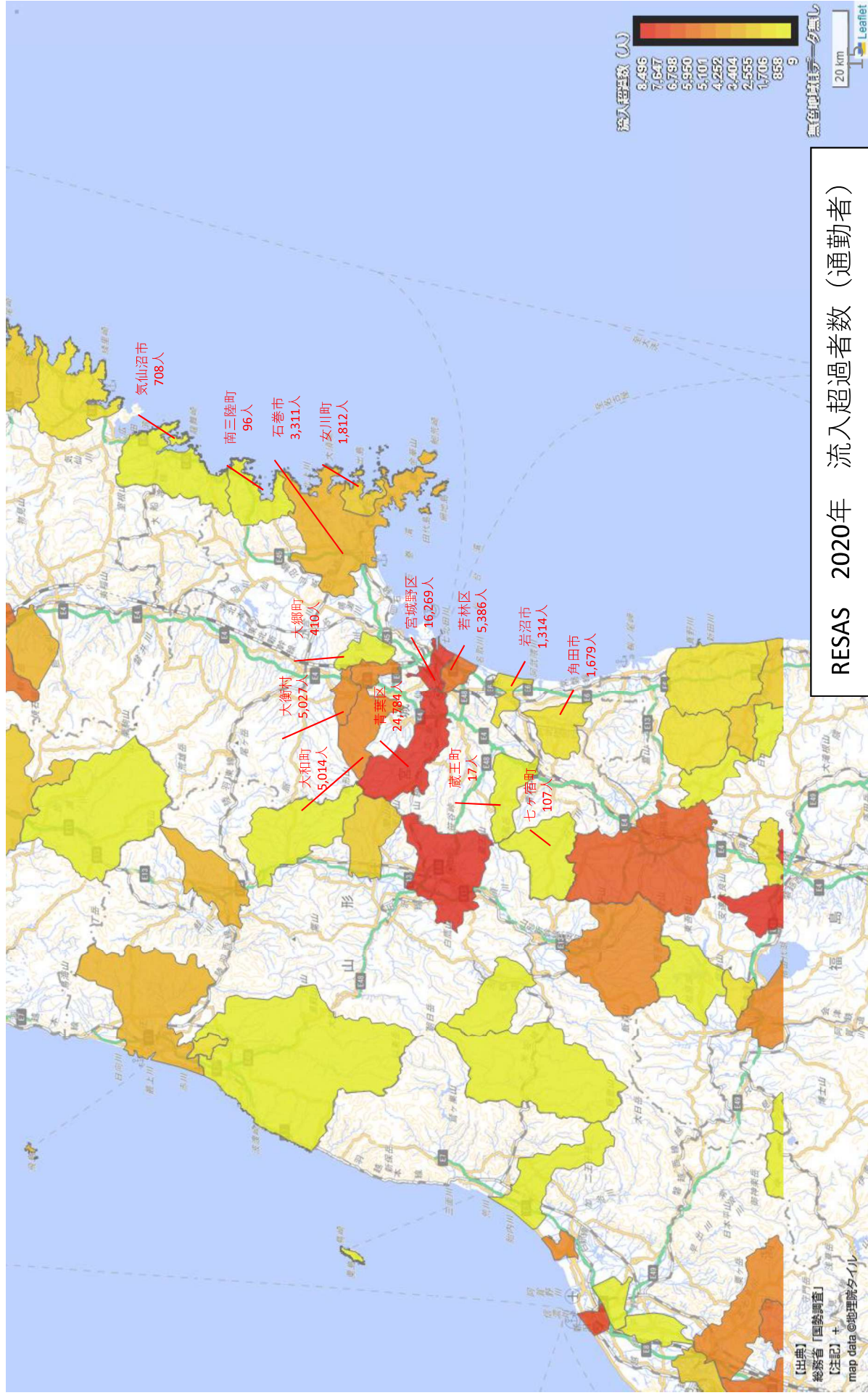
- ・現在と5年後を比較すると、名取市、多賀城市、大和町、大衡村を除く市町では、学生数が減少する見込み。
- ・学生利用が多い路線については、今後利用者数が減少する可能性がある。
- ・一方で、通院や買い物移動に比べて定時性が求められるため、通学利用者の目線では定時運行形態の維持も重要となる。

宮城県内の15歳～19歳推移（2025-2030）



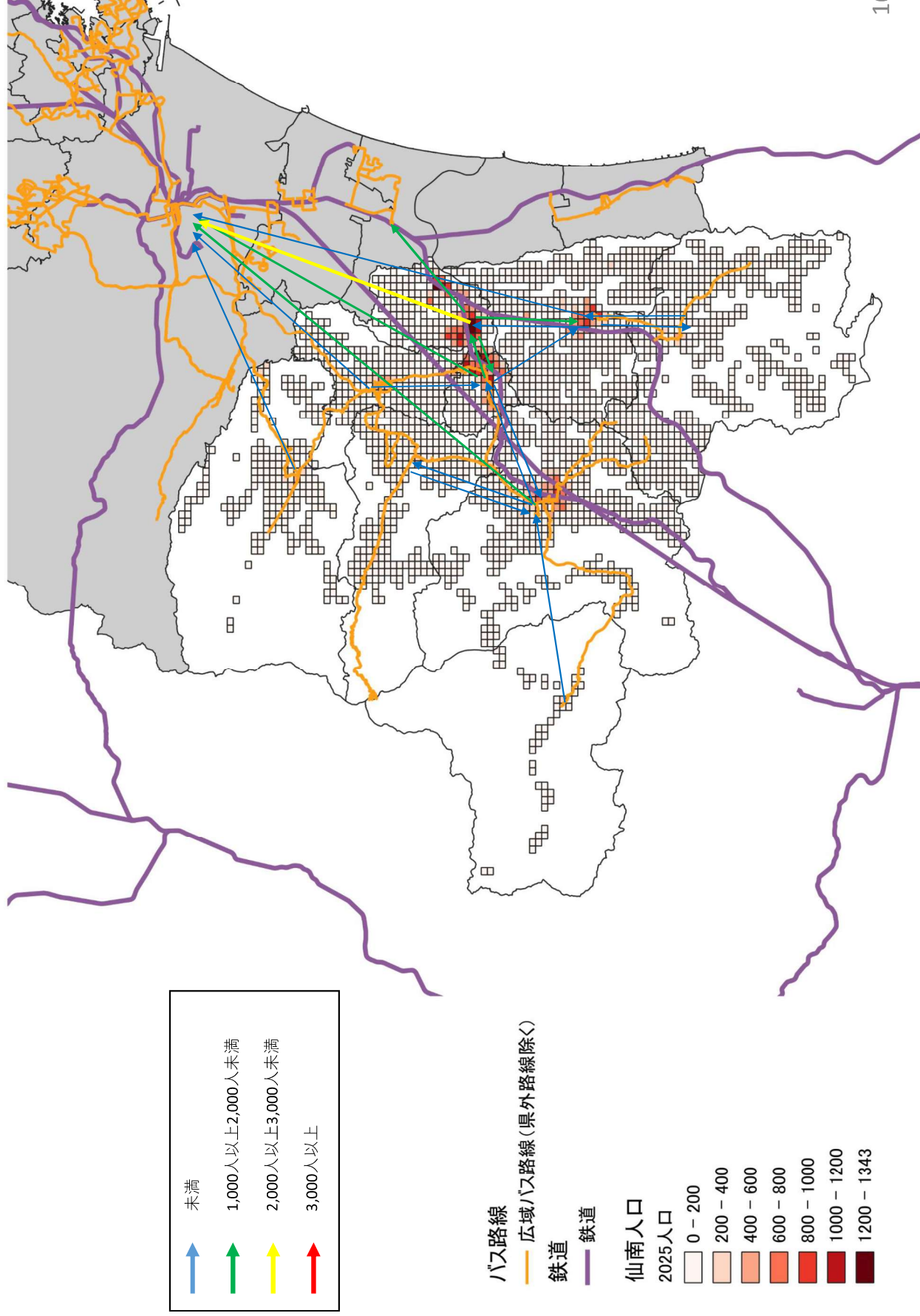
3-1 主題図による現状整理（通勤）

- ・仙台市青葉区、宮城野区に1万人以上の流入が見られるほか、石巻市、気仙沼市といった中心市への流入も多く見られる。
- ・工業団地等が立地している角田市、岩沼市、大和町、大郷町、大衡村、女川町でも昼間人口が多くなっている。



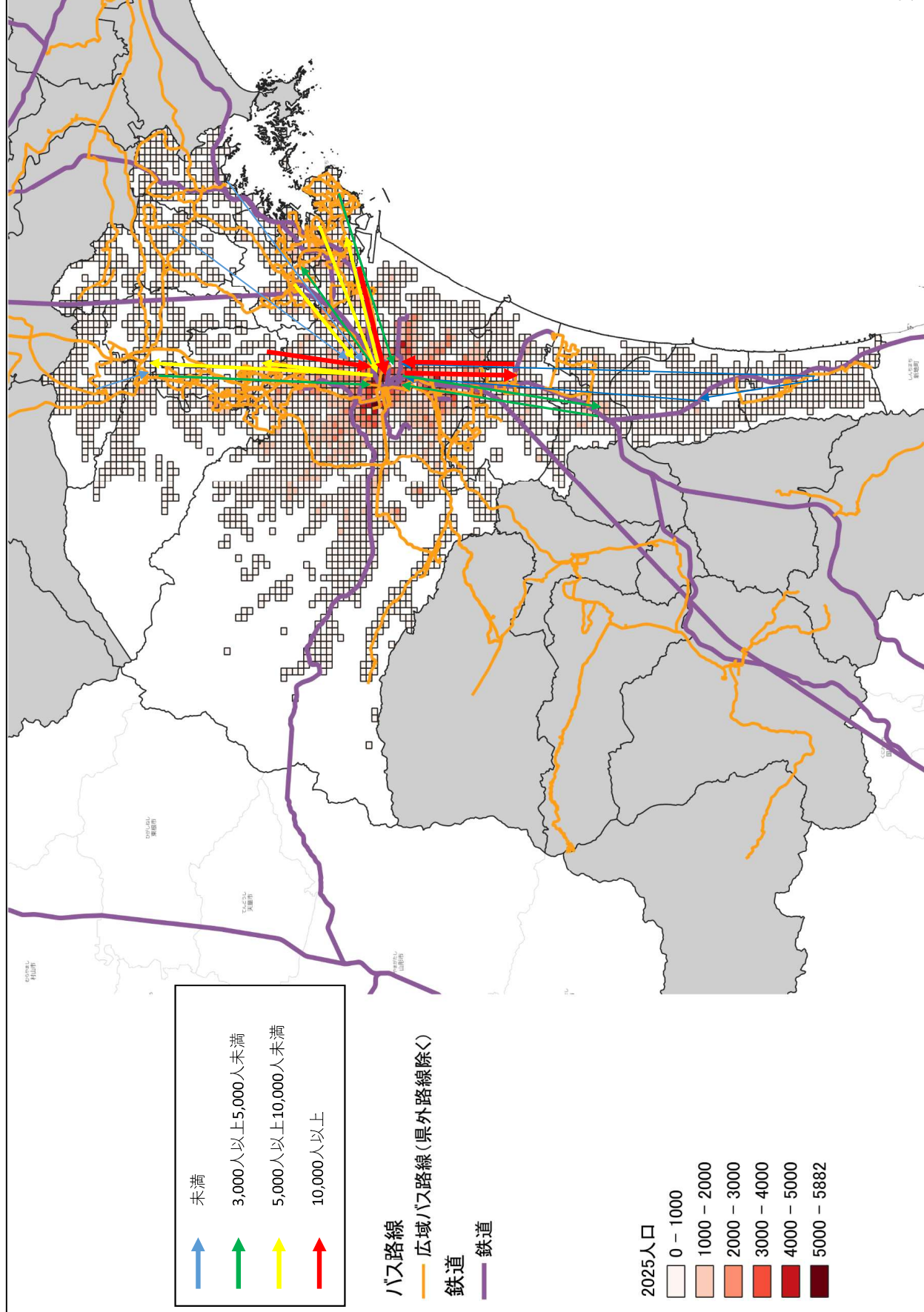
3-1主題図による現状整理（通勤）

- ・通学移動に比べて、移動ニーズが多様化している。
- ・角田市、七ヶ宿町で流入超過が認められる。特に角田市については、大手製造業の工場が立地していることなどから、流入超過となっていると思われる。
- ・柴田町、大河原町については大幅な流出超過であり、仙台圏への流出が多くなっている。



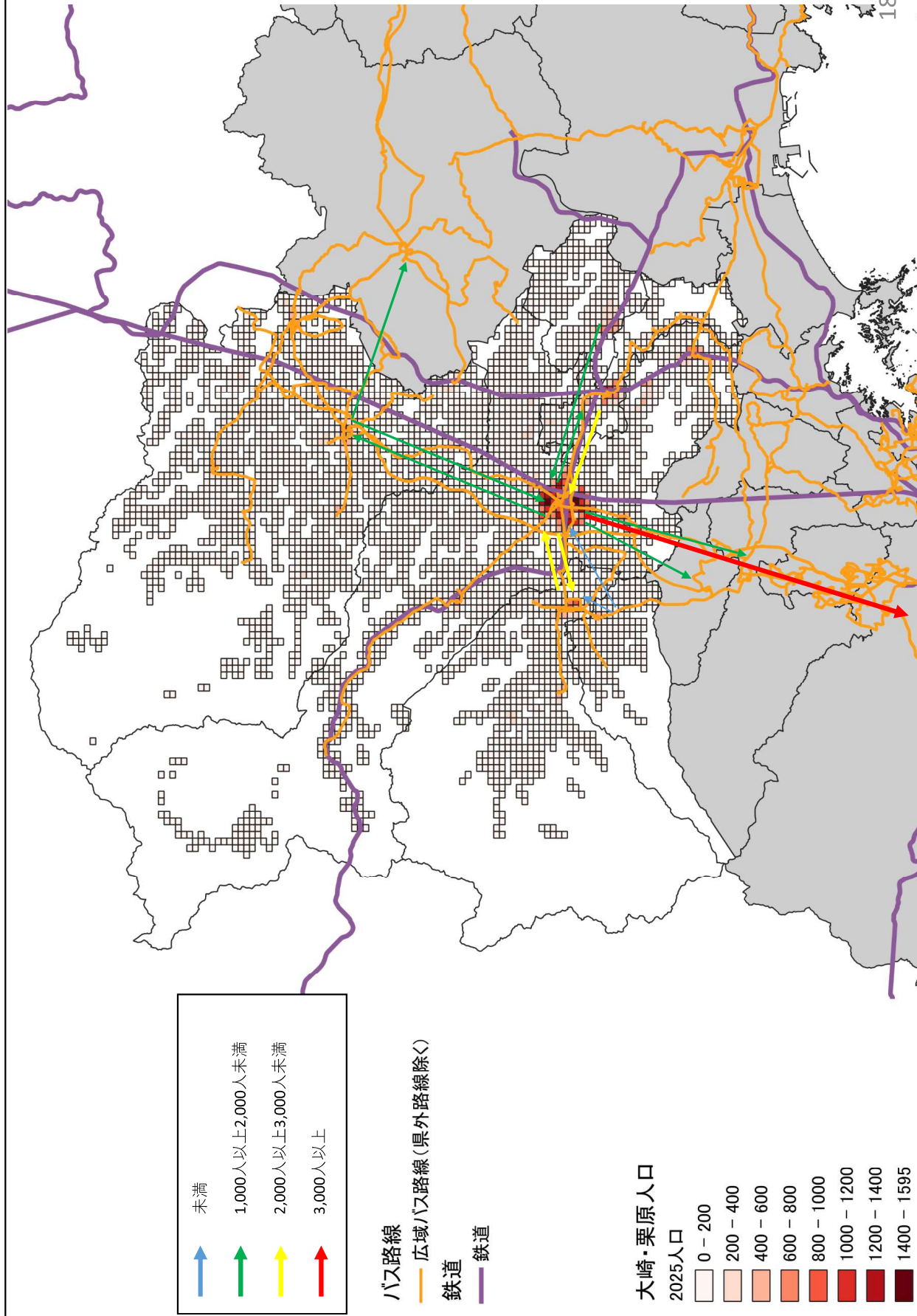
3-1主題図による現状整理（通勤）

- ・各市町村から仙台市へ流出する量が多い。名取市（14,980人）、多賀城市（12,298人）、富谷市（11,655人）の順で多く、上位3市は鉄道又はバスの接続本数も非常に多い。
- ・仙台市から富谷市・大和町へ向かう流動も多く見受けられるが、バスが唯一の公共交通手段となっており、地域間幹線系統の中でも「吉岡線」は特に利用者が多い路線となっている。



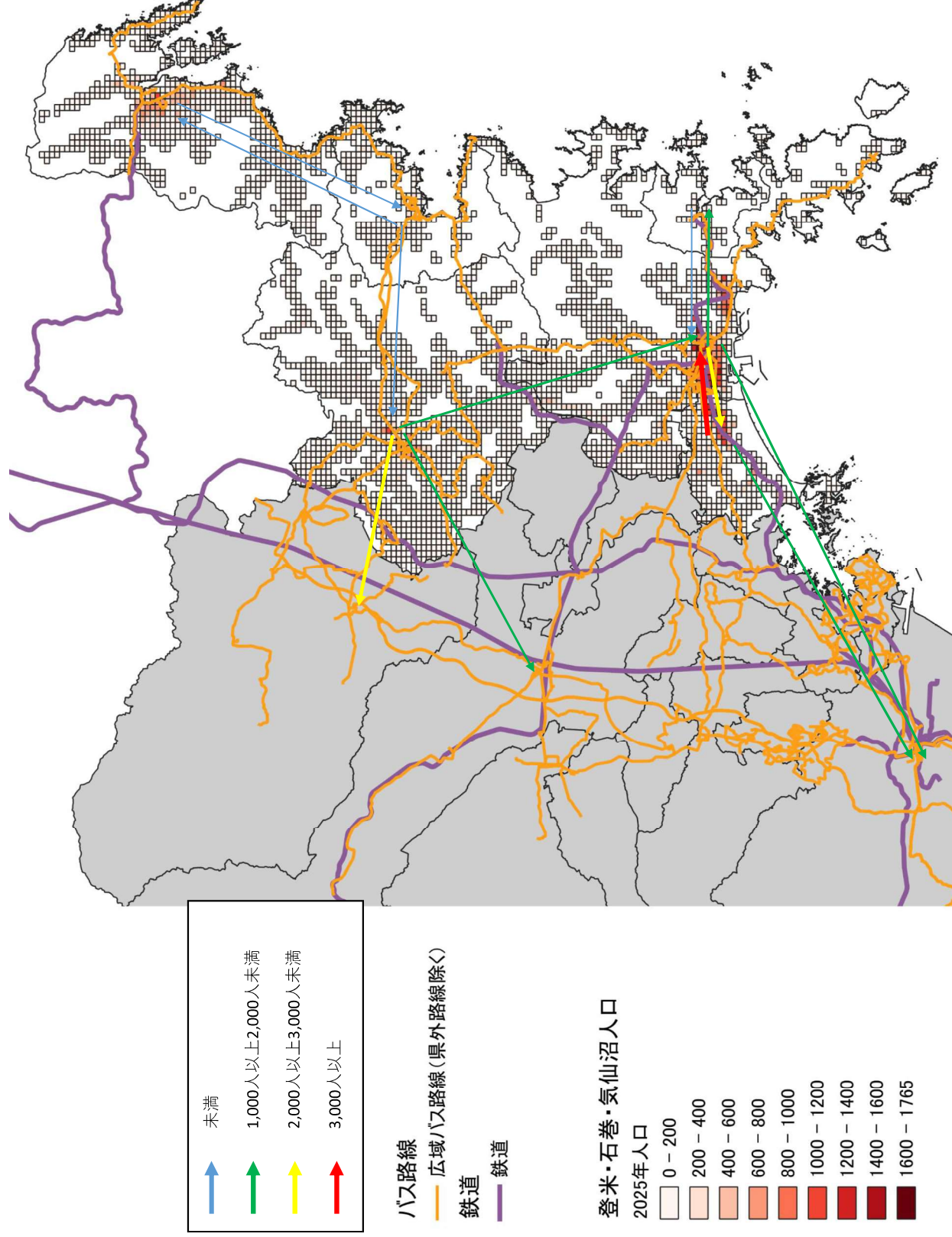
3-1主題図による現状整理（通勤）

- ・各市町村から大崎市へ流出する量が多い。
- ・大崎市から仙台市、大和町、大衡村方面への通勤流動も多く見られる（石巻市と比較して仙台市への通勤流動が約2倍となっており、広域移動に東北新幹線が寄与していることが考えられる）。



3-1主題図による現状整理（通勤）

- ・各市町村から石巻市への流出量が多いが、石巻市から女川町への流出も一定数見受けられる。
- ・登米市からは石巻市、栗原市、大崎市の3方向へ流出がある。
- ・気仙沼市については、県内よりも岩手県側との流入入が多く、独自の交通圏を構築している。



3-2 今後の展望（通勤）

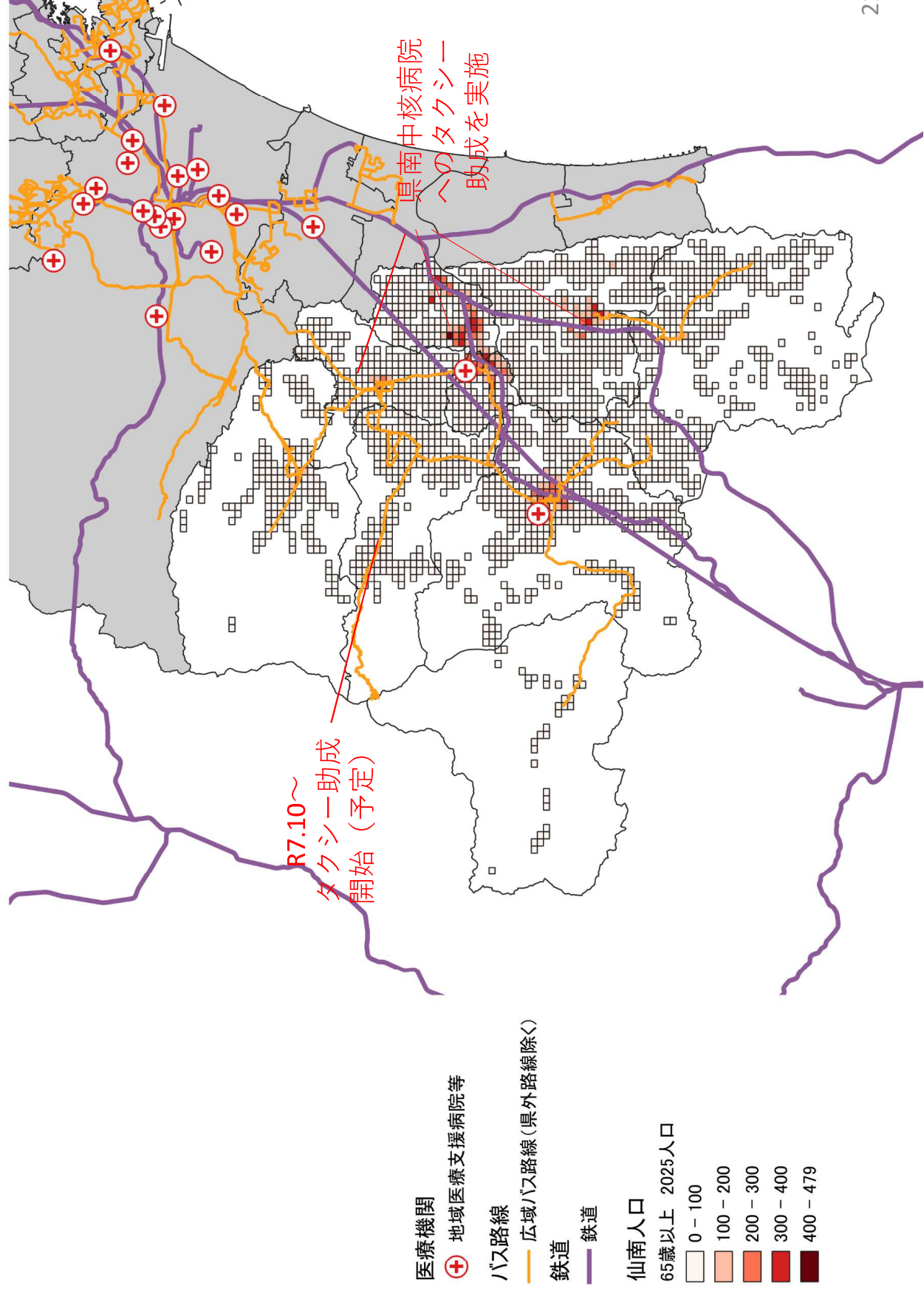
- ・現在と5年後を比較すると、名取市、大和町、大衡村以外を除く市町では、生産年齢人口が大幅に減少する見込み。
- ・通勤利用者の減少だけでなく、交通サービスを提供する担い手確保も重要となる。
- ・また、通院や買い物移動に比べて定時性に比べて定時性が求められるため、通勤利用者の目線では定時運行形態の維持も重要となる。

宮城県内の生産年齢人口（15歳～64歳）推移（2025-2030）



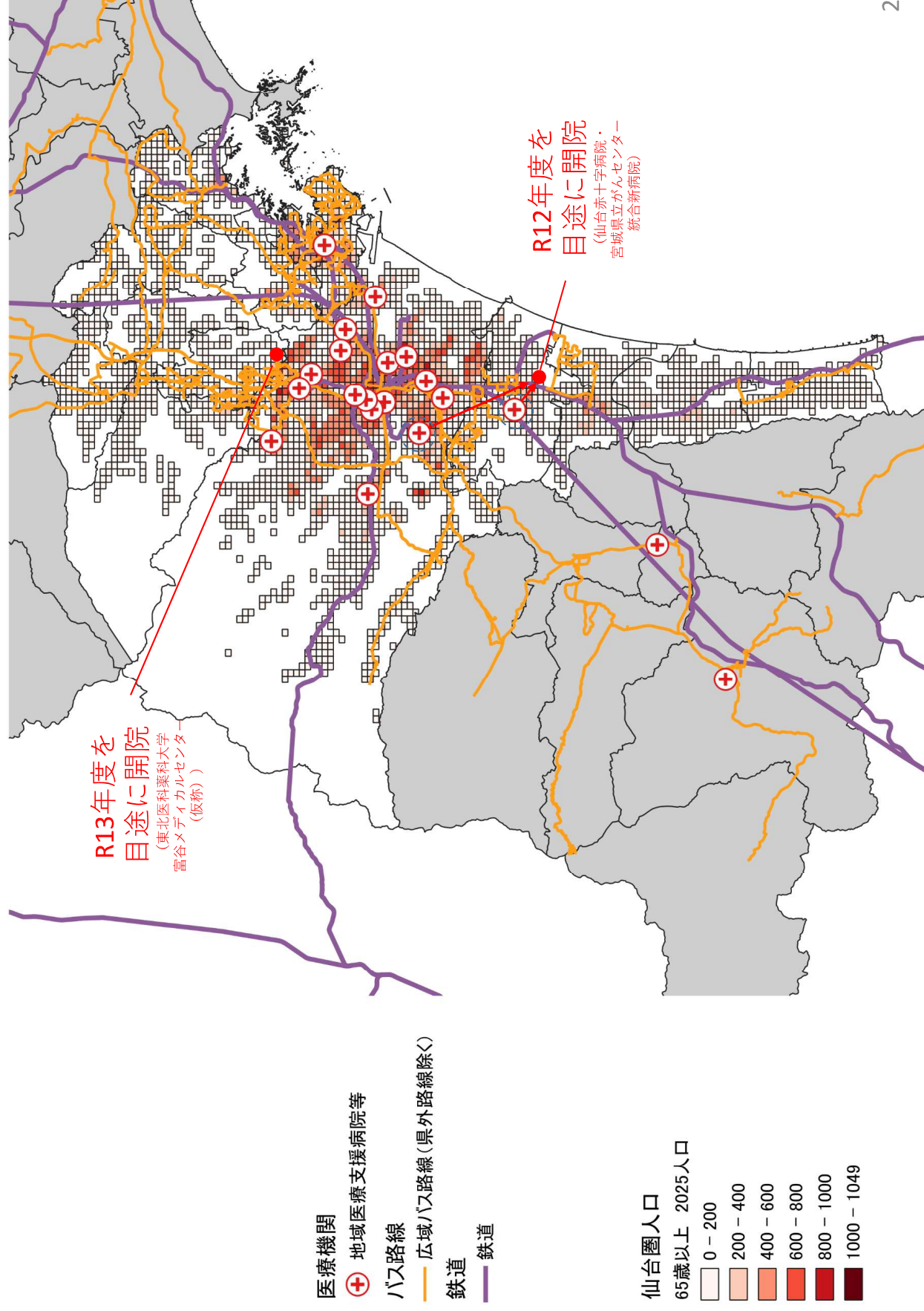
4-1 主題図による現状整理（通院）

- ・みやぎ県南中核病院は、「川崎線（ミヤコーバス）」で川崎町、村田町中心部及び大河原駅と接続しているが、乗り継ぎ・所要時間などの課題から、周辺市町ではタクシー助成を実施している。
- ・公立刈田病院は、「七ヶ宿白石線（平日5回）」、「大張線・白角線（白石市）」が直接接続している。また、城下広場・白石駅を乗換拠点に14回/日接続されている。



4-1主題図による現状整理（通院）

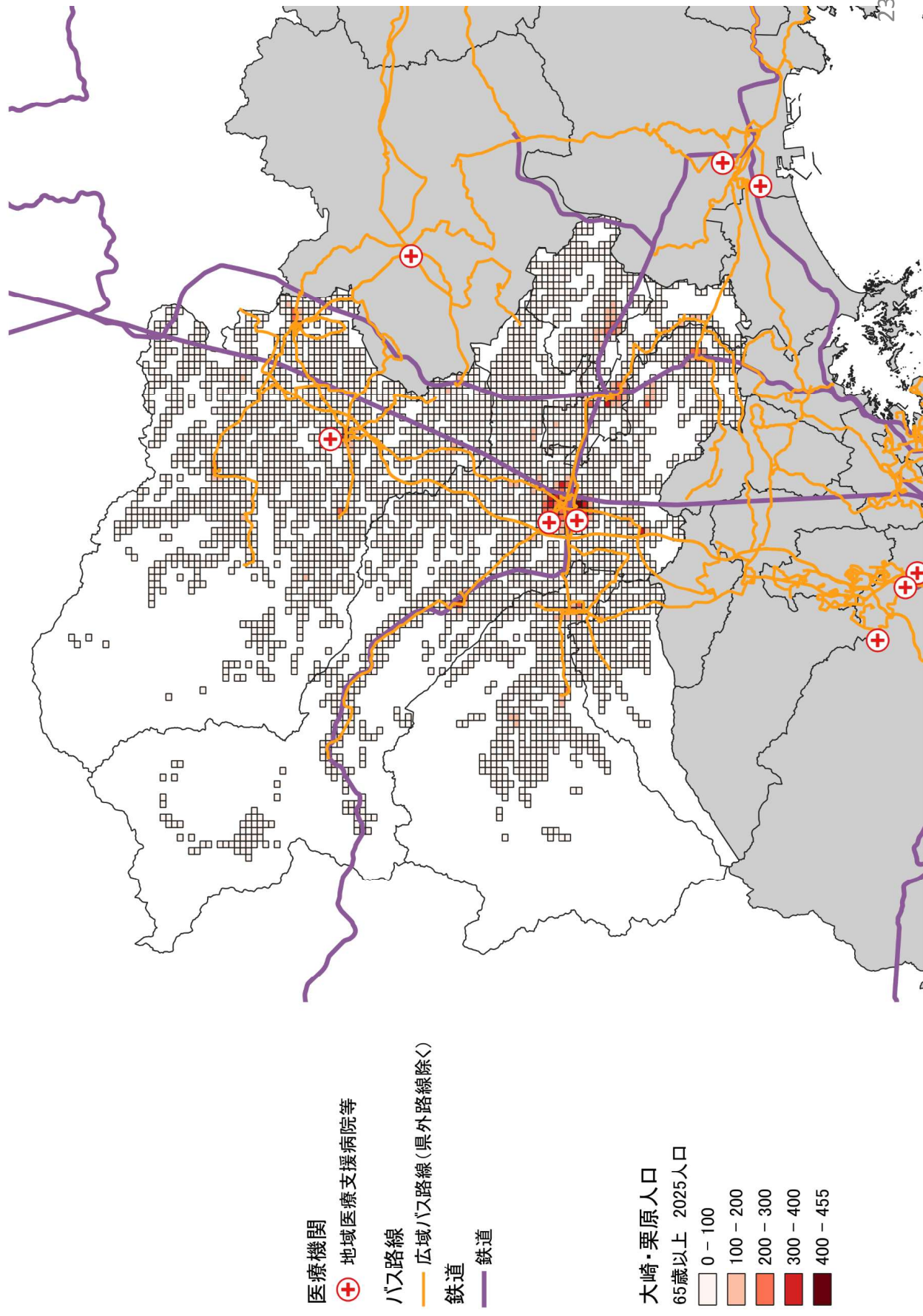
- ・仙台市を中心に医療資源が集中しており、鉄道や高速バスを活用したアクセスが一定数見込まれる。
- ・大郷町は仙台方面へアクセスできる民間バスがないことから、コミュニティバスで塩竈、松島、大和方面へのアクセスを確保している。
- ・令和12年度以降に圏域内で病院移転等が予定されており、広域交通に関しても再編が見込まれる。



4-1主題図による現状整理（通院）

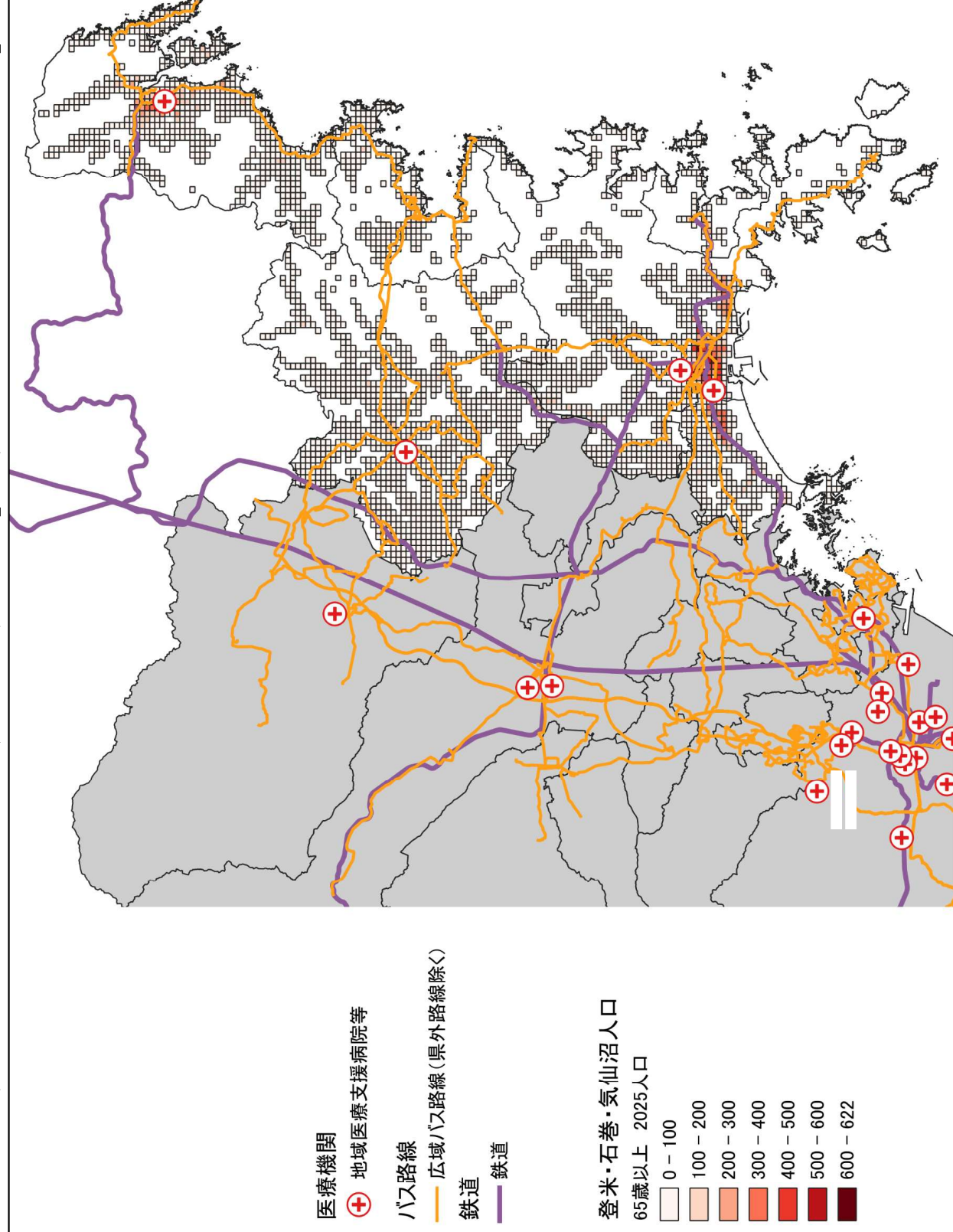
・大崎市民病院は、色麻・加美方面からは「色麻線」が、栗原方面からは「築館古川線」が直接接続している。また、美里・涌谷方面からは鉄道を介した乗継が可能である（古川駅一病院間は大崎市コミュニティバスが多数運行）。

・栗原市立栗原中央病院は、大崎方面からは「築館古川線」が、登米方面からは「玉沢線・横須賀線」が各方面の鉄道駅と直接接続している。



4-1主題図による現状整理（通院）

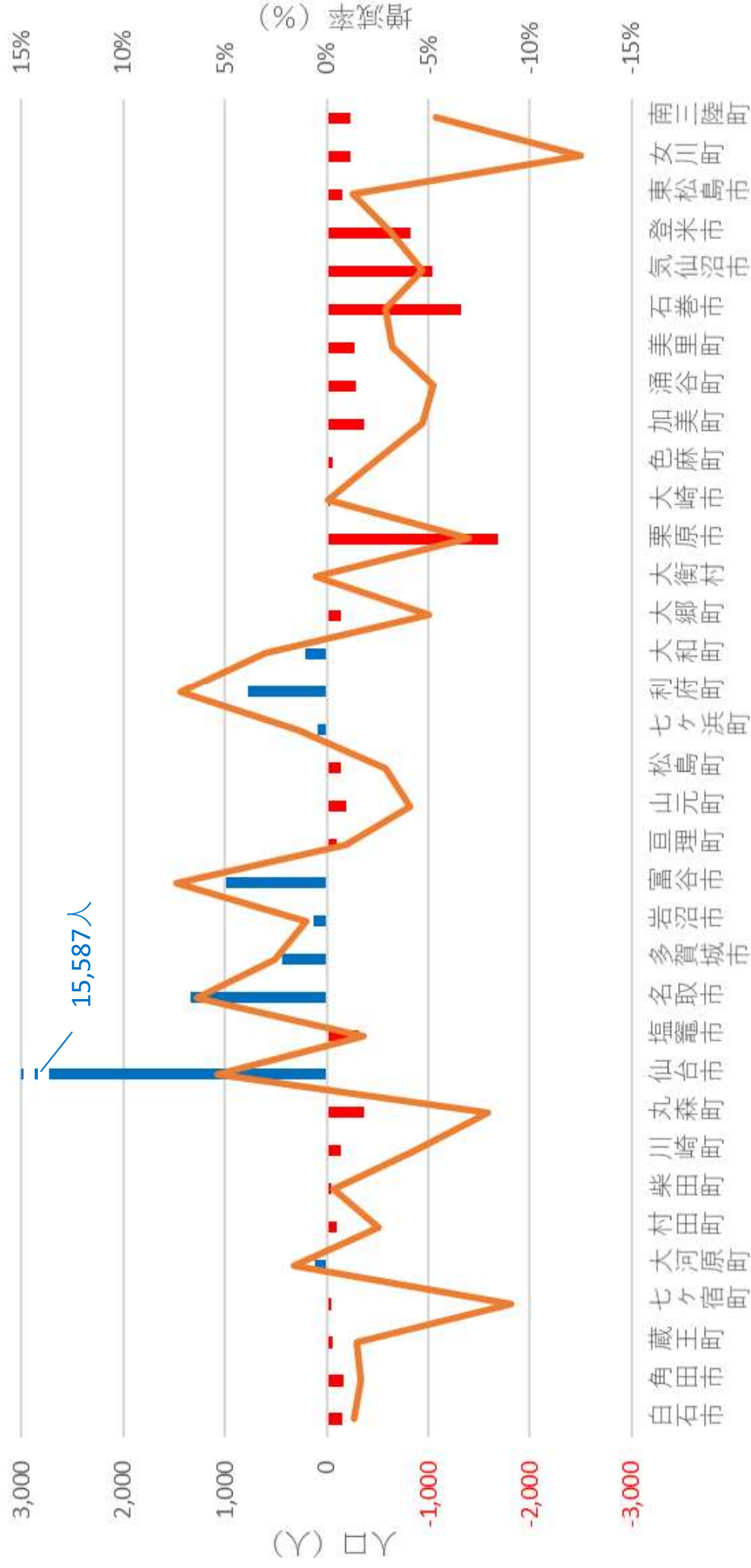
- ・気仙沼市立病院は、南三陸方面からは「気仙沼BRT」が直接接続（日3回）している。また、南気仙沼駅等を介した乗継が可能である（南気仙沼駅等一病院間は気仙沼市内循環線、御崎線が運行）。
- ・石巻赤十字病院は、直接接続されている広域路線は「石巻免許センター線」以外ないものの石巻駅から多数の路線バスが運行していることから、鉄道を介したアクセスが可能である。他方、登米市からのアクセスは限定的である。
- ・登米市民病院は、栗原方面からは「新田線、石越線、南方線」が、大崎方面からは「米山佐沼線」が接続している。



4-2 今後の展望（通院）

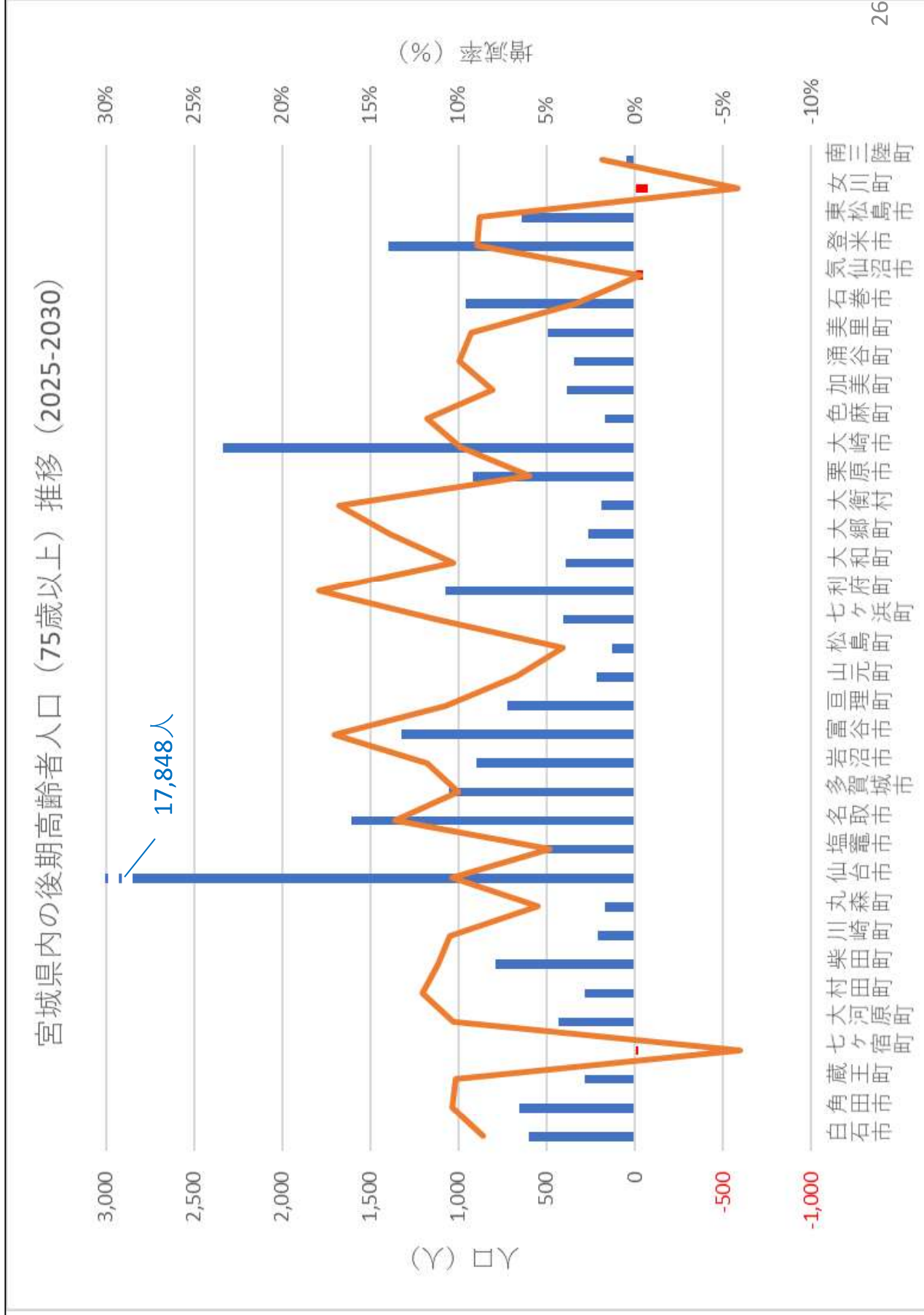
- ・仙台圏域では老年人口（65歳以上）が402千人から422千人へ増加（5%増）する見込み。これに比例する形で外来患者も2030年頃にピークを迎える可能性がある。
- ・その他の圏域では老年人口が減少傾向にあり、多くの地域で外来患者は減少局面にあると思われる。

宮城県内の老年人口（65歳以上）推移（2025-2030）



4-2 今後の展望（通院）

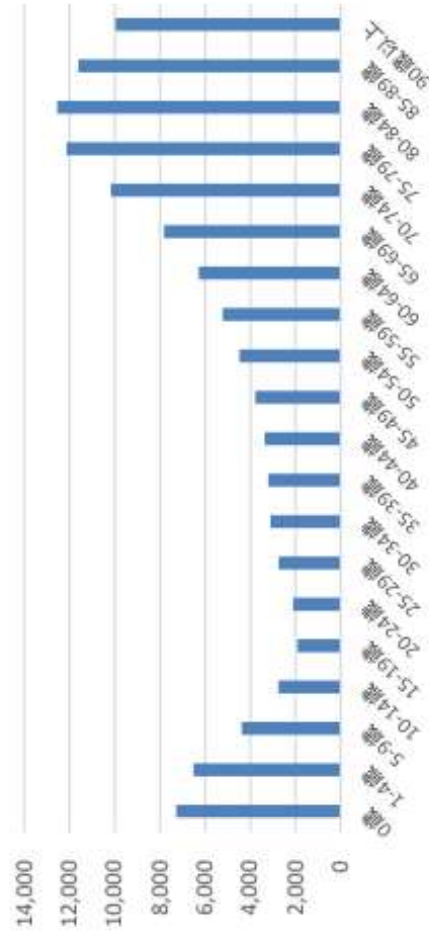
- ・ 老年人口（65歳以上）については多くの自治体で減少する見込みだが、後期高齢者（75歳以上）に限ると多くの自治体で増加する見込みになっている。
- ・ 75歳以上の免許人口当たりの死亡事故発生件数は他の年代と比較して多くなっていることから、通院の足を確保するための取組の重要性は一層増していくものと思われる。



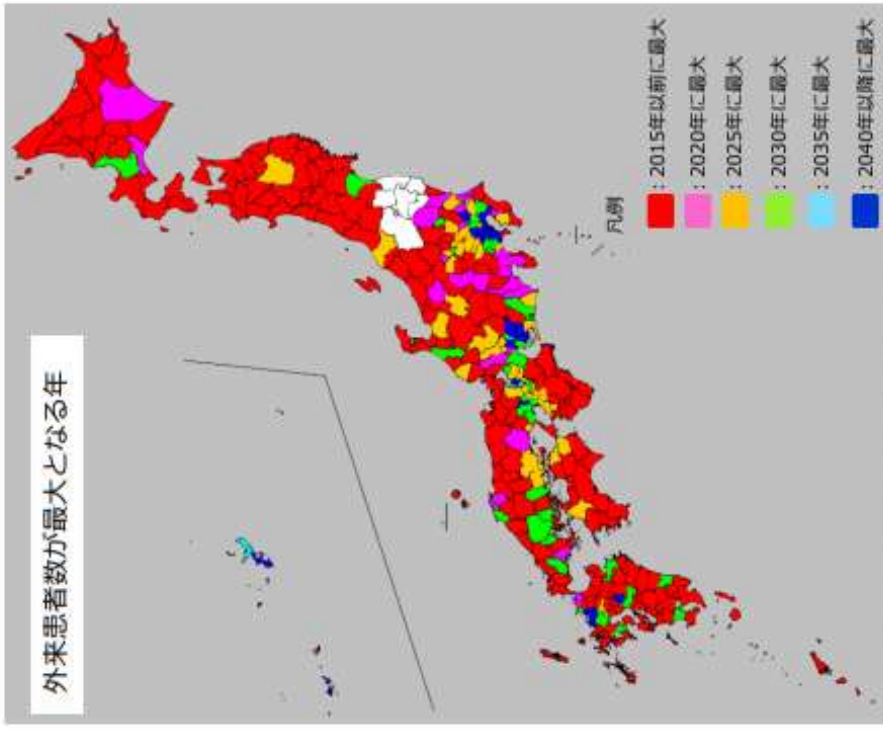
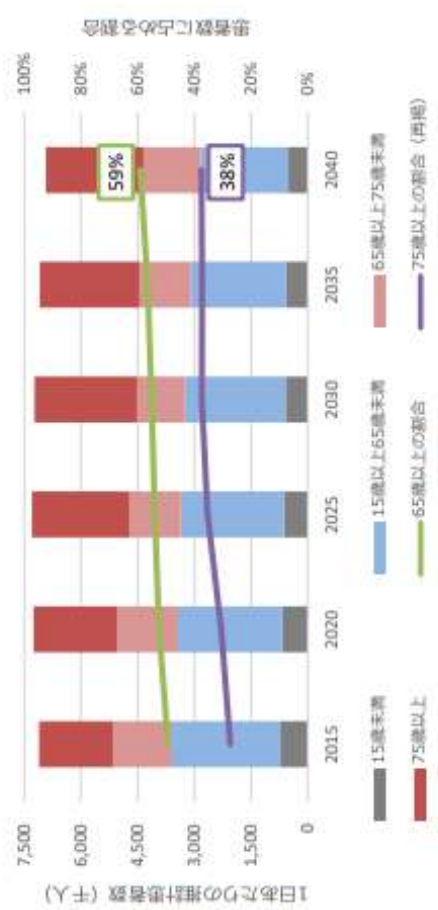
外来患者数は、既に減少局面にある医療圏が多い

- 全国での外来患者数は2025年にピークを迎えることが見込まれる。65歳以上が占める割合は継続的に上昇し、2040年には約6割となるが見込まれる。
- 既に2020年までに214の医療圏では外来患者数のピークを迎えていると見込まれる。

外来受療率（人口10万対）



外来患者数推計



出典：患者調査（平成29年）「受療率（人口10万対）、入院・外来×性・年齢階級×都道府県別」
国立社会保険・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」
※「外来」には「通院」「往診」「訪問診療」「医師以外の訪問」が含まれる。
※ 二次医療圏の患者数は、当該二次医療圏に属する都道府県の受療率が各医療圏に当てはまるものとして、²⁷ 将来の人口推計を用いて算出。
※ 福島県は市区町村ごとの人口推計が行われていないため、福島県の二次医療圏を除く329の二次医療圏について集計。